

2022 年度入試結果総評

—広島県—

令和4年度の広島県公立高校選抜Ⅱ(一般入試)の最終志願者数は全日制で10,923名。選抜Ⅱの定員(入学定員—選抜Ⅰの定員)は全日制で10,658名。志願倍率は1.02倍でした。昨年(令和3年度)は選抜Ⅱ定員が10,576名に対し志願者が10,947名で志願倍率1.04倍。昨年と志願者数はほとんど変わりませんが、定員が少し増え(選抜Ⅰと合わせて320名増)たため、全日制全体としては志願倍率が下がっています。広島県の公立高校入試は平成18年度からすべての県立高校の学区が廃止され、通学区域が全県一円となったため、市内の人気校の倍率が高くなる傾向にあります。全体志願倍率は1.02倍ですが、トップ校である基町高校(普通)は受検倍率が1.43倍、舟入高校(普通)1.30倍、国泰寺高校(普通)1.52倍、皆実高校(普通)1.72倍など、倍率が高くなっています。

主要校の令和4年度選抜Ⅱ 定員と受検倍率

学校名	学科(コース)	入学定員	選抜Ⅱ定員	受検者数	受検倍率
広島市立基町	普通	320	256	367	1.43
広島市立舟入	普通	280	224	292	1.30
広島国泰寺	普通	240	192	292	1.52
広島皆実	普通	240	192	330	1.72
広島井口	普通	320	256	276	1.08
広島観音	総合学科	240	192	350	1.82
安古市	普通	320	256	217	0.85
祇園北	普通	280	224	261	1.17
海田	普通	200	160	204	1.28
五日市	普通	240	192	232	1.21

平成27年度から平成30年度にかけては、入試問題は難化傾向にありました。大学入試改革を見越して、広島県では高校入試の改革が進み、思考力や表現力を試す問題がよく見られるようになってきた時期です。しかし、平成31年度以降からは若干の易化傾向と、学校や塾で対策がなされるようになり受験生が慣れてきたこともあるのか、平均点が少しずつ上昇し、令和2年度入試までその傾向が続きました。昨年、今年と平均点がまた平均点が下がり、一番平均点の高い社会が24.6点で、一番低い理科は18.8点。全科目正答率は50%以下です。他都道府県と比較しても平均点が低く、広島の入試問題は難易度が高めだと言えるでしょう。ただし、応用問題のように問題のレベルが高く解くのが困難な問題が出題されるというわけではなく、長文の問題が多いために設問の意図の理解や条件の整理が難しかったり、記述問題の割合が高いために解答のまとめ方が難しかったりすることなどが理由と考えられます。問題文を丹念に読み解く力や、条件を整理する力、そして自分の解答をまとめる力をしっかりつける必要があります。

広島県公立高校入試選抜Ⅱの平均点推移(各50点、250点満点)

教科	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4
国語	30.2	32.1	31.5	28.8	25.6	23.9	23.5	23.6	26.5	21.5	24.6
社会	29.6	26.7	30.8	25.7	21.2	19.3	18.0	21.6	22.0	26.5	23.3
数学	22.9	23.7	27.3	30.1	24.8	23.0	22.4	21.0	28.2	21.1	20.2
理科	25.0	27.4	25.3	23.0	19.7	17.1	19.1	23.3	28.6	24.4	18.8
英語	23.6	21.3	24.4	26.3	23.7	15.9	24.4	21.3	23.9	21.1	20.4
合計	131.3	131.2	139.3	133.9	115.0	99.2	107.4	110.8	129.2	114.6	107.3